

学校法人 コミュニケーションアート 神戸・甲陽音楽&ダンス専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料【令和6年7月26日実施】

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

氏名 尾堂 吉彦

大項目	点検・評価項目	自己評価		特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	点検・評価項目総括		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	2	教育理念 本校と本校の属する学校法人は、学校運営に当たり、「職業人教育を通じて社会に貢献すること」をミッション(使命)とし「3つの教育理念」と「4つの信頼」を基に、事業計画を作成している。	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「業界に直結した職業人教育を通じて社会に貢献すること」をミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、常に揺るがない建学時からの価値観の源泉である「3つの建学の理念」と「4つの信頼」を実践している。 医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡・米国まで82校を有する。 「実学教育」 スペシャリスト・マネジメントが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人ひとりの個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。 「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキルを身につけ、同時に職業人・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。 「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野で物事を捉える国際的感性を養う。音楽・エンターテインメント系全校の教務部から構成される「音楽系教育部会」を設置し、育人人材像から教育システム・内容(カリキュラム)等々の見直し、開発など、スケールメリットを活かして行い、水平展開を図る。	3・2・1	
	1-2 学校の特色は何か		「3つの建学の理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」) 「4つの信頼」 ①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼 建学の理念に基づき、『産学連携教育』を通して、エンターテインメント業界で即戦力となる人材を育成し、また海外の提携校との取り組みなど、世界を舞台に活躍できる即戦力育成を行うことを目的として学校運営をしている。			
	1-3 学校の将来構想を抱いているか		目下の課題としては、業界の変化とともに、求められる人材を育成すべく、業界と連携しより質の高い産学連携教育の構築である。さらに、地元神戸の企業との産学連携にも注力していきたい。			
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	学校運営 滋慶学園グループが計画する5ヵ年計画をうけ、各校は具体的に各年度事業計画書を作成し、その中で5年後の将来像等構想を描いている。諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。 職員朝礼では、日々の業務で感じることを共有し、語録を用いて理念・考え方の統一に努めている。	3・2・1	
	2-5 事業計画は定められているか		それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が本校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。本校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。			
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか		事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組、職務分掌、各種会議及び研修等について明確に示されている。			
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか		課題としては、「人が成長しない組織に発展はない。」新入職者も増えてきた現状における事業計画の周知が重要である。半期ごとに事業計画の振り返りを入れるなど、職員への周知徹底を行い、各学科の運営を全教職員で実践していく。各種研修や会議、ミーティングなどを通して、理念、方針の理解・共有を推進する。			
	2-8 意思決定システムは確立されているか		滋慶学園グループDX委員会では、DXに関連する概念やテクノロジー、プロセスを理解すべく、各種研修や会議などを通して、データの活用・分析、業務の効率化、リテラシー教育など推進する。			
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか						

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>2</p>	<p>職業人教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に教育課程編成委員会や教育分科会等で研究、見直し等を行っている。3年制学科・4年制学科の各学年到達目標を分野ごとにさらに細かく設定をしていくことが今後の課題になる。</p> <p>実学教育として技術・知識を身に付ける「専門職業教育」に加え、人間教育として職業観・勤労観や仕事に対する身構え・気構え・心構えを身に付ける「キャリア教育」双方を兼ね備えた教育を実施している。</p> <p>前期・後期終わり年間2回、授業アンケートを実施し、授業評価を行いながら学生の授業に対する満足度の把握・向上に努めている。成績評価、進級・卒業認定基準は学則で明確に決められており、学生便覧及び教育指導要領に記載。学生、教職員、講師に周知徹底している。そして、進級判定会議や卒業判定会議を通して適切に運営されている。</p> <p>卒業・進級制作展において学生の研究課題や企業プロジェクトの発表、JESC奨励賞審査会を開催し年度毎に行ったプロジェクトを各企業、関係者にプレゼンテーションし評価いただいている。</p> <p>教職員の資質向上の取り組みとして、JESC(滋慶教育科学研究所)主催のFD(ファカルティディベロップメント)研修やカウンセリング研修を行っている。</p> <p>就職希望者 専門就職率100%は達成出来ているが、大幅な退学者数、退学率の低減に取り組みを実施しているが退学率0%を達成できていない。</p>	<p>開設以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職希望者 専門就職率 100% 2. 退学率 0% (入学者の全員卒業) <p>を掲げ、その達成のために様々なシステムを構築している。</p> <p>本校の教育の柱である「産学連携教育」により、即戦力としての実践的技術・知識、マインド等を身につける。一人ひとりの可能性を最大化するために、Wメジャー・カリキュラムを実践している。国際性を高めるための海外実学研修、専門留学、特別ゼミなど取り組んでいる。</p> <p>第一専門就職率100%を達成するため、キャリアセンターを中心に、就職情報の管理等のシステムを構築している。また就職支援のため姉妹校との情報共有や合同企業説明会、新人発掘プレゼンテーションなどでグループ力を活かしたサポートを行っている。地域経済の発展のために単独企業説明会面接会で学内選考できる機会の誘致を強化させる。</p> <p>キャリア教育の一貫として行われる入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育の実践。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、プロの職業人としての気構え、身構え、心構えを身につけさせることに取り組んでいる。</p>	<p>3・2・1</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>2</p>	<p>本校では、就職希望者の全員専門就職、退学者0名を教育の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、開校以来、就職希望者の全員就職を達成しているが、これからの課題としては「第一専門職種への就職」として、適切な求人確保するため、積極的に新たな企業への働きかけを実施する。</p> <p>就職出陣式では、就職活動をしていく上での心構えや準備、インターンシップなどに関しても触れ、学生の就職への意識を高めている。</p> <p>卒業生の就職先での評価については、現状すべてを把握出来ておらず、企業訪問を徹底や同窓会など今後行う。</p>	<p>企業の採用選考活動の早期化を受けてインターンシップ等のキャリア形成支援活動、企業研究、就職支援就職出陣式、企業説明会を実施。</p> <p>就職活動スケジュールを明確にし、第一専門職種へのチャレンジを促進する。学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、学園グループ内に「チームゼロ」を組織。事例検討会を定期的に行いチームで対応策を考える。</p> <p>十分なカウンセリングを経て、学内にて転科・転選考できる体制づくり、姉妹校と連携した転校プログラムを活用し学生の学びの機会を喪失しないように努める。</p>	<p>3・2・1</p>

<p>5 学生支援</p> <p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる環境整備を行う。</p> <p>1.就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。</p> <p>2.学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>3.学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(滋慶トータルサポートセンター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>4.健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p> <p>今後の課題として、経済的な理由で学費を払うのが困難な学生に対して、早期に相談できる体制を整え、修学支援制度、各種制度、奨学金などを推進し一人ひとり状況に応じて柔軟に対応する。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「一人ひとりの学生を大切に」という考え方がありますが、本校でもこの考え方の通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に重要視をしている。 業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を進めている。</p> <p>「教育」については、即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業、提携する海外大学との単位互換制度など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>また、精神的・肉体的に通常のクラスでは授業についていけない事情を抱えた学生のため、SSC(滋慶トータルサポートセンター)を設置しカウンセリングなどの体制を整えている。</p>	<p>3・2・1</p>	
<p>6 教育環境</p> <p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。</p> <p>業界標準の最新設備を備え、即戦力としての技術を身に付ける環境が整備されていると自負する。</p> <p>今年度も海外研修を実施予定としている。</p> <p>防災に関しては、防災訓練等実施等を行っている。 安全管理マニュアルを策定し定期的に職員の周知を行っている。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界標準の最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新を行っていく。これ以外の学外教育環境の整備も重要な課題であり、これは本校の大きな強みとなっていくと考えている。</p>	<p>3・2・1</p>	

<p>7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ</p> <p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>2</p>	<p>本校は、兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定められたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等も)を遵守している。</p> <p>また、過大な広告を一切廃し、適切な学校募集ができるように配慮している。さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施している。入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」である。その基準となるのは、「目的意識」であり、入学試験という名称のもと学科試験を行うものではない。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に学期途中での追加徴収を行わない。</p> <p>高専連携に関しても進めており、高校生バンドフェス、ジャズビッグバンド、ダンスなどの部活動支援など高校との取組を行う。今後も多くの分野で連携を図り、高校の先生方への説明も丁寧に行うことで、信頼される学校を目指す。</p>	<p>学生募集については、早期の募集開始時期にも対応し、募集内容等々ルールを遵守し、また過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動においても「夢を持つことの大切さ」「好きなことを仕事にすることの素晴らしさ」を伝えている。</p> <p>目指す職業に対して必要とされるスキルをどのように身に付けるべきかなど、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果としては、産学連携教育を元にした専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。</p> <p>入学定員100%を目指し広報活動を行う。</p>	<p>3・2・1</p>
<p>8 財 務</p> <p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。</p> <p>その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠のものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5カ年の収支予算を立てている。</p> <p>次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>当年度も含め、予算は当初計画通りに執行している。</p> <p>月ごとの実績算定と評価を行い、必要があれば修正を行う。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能にするための2つの要素がある。</p> <p>① 正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的(1年)、中長期的(2年～5年)の2種類がある。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。</p> <p>短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している業務計画を加味して行なわれる。</p> <p>中長期的な予算編成は大規模な計画(新学科申請、学納金額変更、増改築等の設備支出など)を視野に入れたうえで、社会・経済・業界の情勢を読み取りながら行われる。</p> <p>正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算に現実の予算との差異が生じた場合はそれを修正する必要がある。</p> <p>そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすこととしている。</p> <p>これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>② ①のための体制づくり 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、理事会・評議員会が承認する体制を整えている。</p> <p>さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	<p>3・2・1</p>

<p>9 法令等の遵守</p> <p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>3</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COM グループ) 滋慶学園グループ、滋慶学園COM グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。</p>	<p>すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にもコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に務める。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p>	<p>3・2・1</p>
<p>10 社会貢献</p> <p>10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>2</p>	<p>本校には、「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を実践し、「4つの信頼」(①学生と保護者からの信頼、②高等学校からの信頼、③業界からの信頼、④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う出張授業支援、また、学園祭など地域に開いたイベントでの地域の信頼を得るなど、各方面から信頼してもらえる学校運営を目指していく。</p> <p>主体的に職員、学生から近隣住民へ笑顔であいさつができる人材を育成する。 今後、地域貢献として、生涯学習の一助になるようなワークショップを企画していきたい。 ボランティア活動に関しては福祉施設との交流や学生個人で行っているものもあるが、もっと積極的に活動できるように支援をしていきたい。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。</p> <p>例えば①神戸市からの依頼では、ジャズ100周年の取り組みとしてBGM制作やイベント制作協力などを行っている。②神戸みなとまつりのイベント制作・運営・出演などを実施している。③滋慶学園COMグループ社会貢献ミュージカル「Hospital Of Miracle」を実施し、生きることの素晴らしさ、骨髄移植についてを、ミュージカルを通じて広く知ってもらう活動を行い、毎年募金活動し、骨髄移植推進財団と夏目雅子ひまわり基金に寄付をしていく。</p> <p>その活動が、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「産業界からの信頼」「地域からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がり、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。</p> <p>今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	<p>3・2・1</p>